

9. 環境啓発活動等のイベント開催実績

東京湾の海域及び流域河川の水質改善等に関する普及啓発活動を含むイベントは、表9-1のとおり、9件の環境啓発活動等のイベントが開催されました。
(募集時に対象期間とした7月～10月外のものも含まれます。)

表9-1 環境啓発活動の開催実績 (実施日順)

報告書 番号	開催場所	実施日	活動内容等	主催
1	横浜市金沢・西区、 千葉県富津・木更津 市	4月～12 月	東京湾 UMI プロジェ クトによるアマモ場 再生活動	東京湾 UMI プロジェク ト参加企業、金沢八景一 東京湾アマモ場再生会 議、海辺づくり研究会
2	旭化成株式会社 製造統括本部 川崎製造所	6月1日～ 6月30日	製造所環境月間の取 り組み	旭化成株式会社 製造統括本部川崎製造所 環境安全部
3	富津市下洲海岸	6月7日	富津海岸清掃活動	日本製鉄株式会社技術開 発本部
4	株式会社日本触媒 川崎製造所	6月23日	2025年度環境大会	株式会社日本触媒 川崎製造所
5	横浜市港北区内の 小学校	7月11日	海の日に関する出前 授業	横浜港湾空港技術調査事 務所
6	横浜港湾空港技術 調査事務所 生物共生型護岸	7月24日	江戸前アサリわくわ く調査	横浜港湾空港技術調査事 務所
7	横浜港湾空港技術 調査事務所 生物共生型護岸	8月8日	生物観察会・横浜の 海はいま？	横浜港湾空港技術調査事 務所
8	東亜合成株式会社 川崎工場	8月28日	工場一斉清掃	東亜合成株式会社 川崎工場
9	横浜港湾空港技術 調査事務所 生物共生型護岸	9月18日～ 9月19日	近隣小学校の環境学 習	横浜港湾空港技術調査事 務所
10	横浜市役所アトリ ウム	9月27日～ 9月28日	東京湾大感謝祭2025	東京湾大感謝祭実行委員 会

イベントレポート1

環境啓発活動等のイベントの概要

主催機関	イベント名
東京湾 UMI プロジェクト参加企業、金沢八景ー東京湾アマモ場再生会議、海辺つくり研究会	東京湾 UMI プロジェクトによるアマモ場再生活動 (アマモ移植、花枝採取、種子選別、種まき)
参加人数とそのうちの子供の数	
参加合計人数 約 1,500 名	
そのうち子供 約 200 名	

【イベント概要】

東京湾 UMI プロジェクトに参加する企業や NPO、一般市民等の多様な主体と協働でアマモ場の再生活動を行っています。今年度は、主に富津干潟に自生するアマモを用いて、横浜市海の公園でのアマモ場再生に取り組みました。

具体的な活動としては、アマモの生態に合わせて、4～7 月はアマモの移植や花枝採取(種子採取)、7～10 月は種子選別、11～12 月は苗床づくりや播種(種まき)を行いました。

【主な活動実績】

1 アマモの移植・花枝採取

実施時期 : 令和7年4月～6月のうち13日間
実施場所 : 横浜市金沢区海の公園、千葉県富津市、木更津市
参加人数 : 総勢 約800名

2 アマモの種子選別

実施時期 : 令和7年7月～10月のうち3日間
実施場所 : 横浜市金沢区柴漁港
参加人数 : 総勢 約70名

3 アマモの苗床づくり・播種(種まき)

実施時期 : 令和7年11月～12月のうち9日間
実施場所 : 横浜市金沢区柴漁港、横浜市金沢区海の公園、横浜市西区臨港パーク
参加人数 : 総勢 約630名

【UMI プロジェクト参加企業】

一般財団法人セブン-イレブン記念財団、東京ガス株式会社、東洋建設株式会社、マルハニチロ株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、日本テレビ放送網株式会社、栗田工業株式会社、株式会社フォーバル、朝日生命保険相互会社、五洋建設株式会社、株式会社 INPEX、パナソニック

クオパレーション株式会社、三菱電機株式会社、株式会社明電舎

(1) アマモの移植・花枝採取イベントの様子



(2) アマモの種子選別イベントの様子



(3) アマモの苗床づくりイベントの様子



苗床の作成



苗床の作成→播種



アマモの種



水槽内に設置して管理

(4) アマモの播種(種まき)イベントの様子



生分解性不織布袋にお絵かき



アマモの種と砂を袋に入れる



海中での作業状況



播種作業をモニターで見守り



※アマモの種と砂を不織布袋に入れた後、ダイバーさんが海底に埋める

イベントレポート2

環境啓発活動等のイベントの概要

主催機関	イベント名
旭化成（株） 製造統括本部川崎製造所 環境安全部	製造所環境月間の取り組み
参加人数とそのうちの子供の数	
参加合計人数 約 950 名 そのうち 小学生 0名、中学生 0名	

【イベント概要】

環境月間に合わせて、製造所内で各種取り組みを実施した。

【開催時期】

令和7年6月1日～6月30日

【場所】

旭化成(株)製造統括本部川崎製造所内の各部署

【主なイベント内容】

製造所内の各部署で以下の活動を実施した。

<活動内容>

1. 公害発生源施設及び公害防止施設の総点検
2. 従業員への環境研修及び啓発
(部場における環境関連設備等に関する教育・周知、トラブル時の対応訓練、等)
3. 施設内・周辺の美化及び環境保全対策
(排水溝の清掃、通路の清掃、施設内の除草、配水管の清掃、等)

イベントレポート3

環境啓発活動等のイベントの概要

主催機関	イベント名
日本製鉄株式会社技術開発本部	富津海岸清掃活動
参加人数とそのうちの子供の数	
参加合計人数 103 名 そのうち 小学生 4 名、中学生 0 名	

【イベント概要】

日本製鉄㈱技術開発本部富津地区の勤務者から有志を募り、地元である富津市下洲海岸の清掃活動を実施しました。

【開催時期】

令和7年6月7日

【場所】

富津市下洲海岸

【主なイベント内容】

日本製鉄㈱技術開発本部富津地区の勤務者103名が参加して、10時～11時まで清掃活動実施しました。海開き前に海岸のごみが一掃され、美しい砂浜になりました。

(活動状況)



(回収されたごみ)



イベントレポート4

環境啓発活動等のイベントの概要

主催機関	イベント名
株式会社日本触媒 川崎製造所	2025年度 環境大会
参加人数とそのうちの子供の数	
参加合計人数 144名 そのうち 小学生 0名、中学生 0名	

【イベント概要】

製造所で従業員、協力会社員を対象に環境大会を開催し、144名が参加した。

【開催時期】

2025年6月23日

【場所】

自社(千鳥工場をメイン会場として、千鳥工場と浮島工場を Teams で繋ぎ、会場を分散して開催)

【主なイベント内容】

従業員及び協力会社員に製造所の環境負荷量推移や環境関連の規制動向等について説明した。

イベントレポート5

環境啓発活動等のイベントの概要

主催機関	イベント名
横浜港湾空港技術調査事務所	海の日に関する出前授業
参加人数とそのうちの子供の数	
参加合計人数 105 名 そのうち 小学生 99 名 小学校教諭 6 名	

【イベント概要】

横浜市港北区内の小学校の4年生3クラスを対象に、海の日に関連した出前授業を行いました。東京湾のことなどに関する座学に加え、東京湾の生き物やゴミ問題について直接触れる場を設けました。

【開催時期】

令和7年7月11日

【場所】

横浜市港北区内の小学校（会場は理科室）



【主なイベント内容】

小学校の理科室を1日貸し切って、小学4年生3クラスを対象にした出前授業を行いました。「海の日」にちなんだ開催であり、東京湾のことをテーマにした座学を行うとともに、当事務所の「潮彩の渚」にいる生物によるタッチプールの設置や実際に漂着した海ごみを展示するなど、児童が直接手で触れる場を設け、東京湾のことを身近に感じられるような内容としました。



1クラスずつの授業



タッチプールの様子

イベントレポート6

環境啓発活動等のイベントの概要

主催機関	イベント名
横浜港湾空港技術調査事務所	江戸前アサリわくわく調査
参加人数とそのうちの子供の数	
参加合計人数 24 名 そのうち 小学生 11 名 中学生 1 名 保護者 8 名 近隣小学校教諭 4 名	

【イベント概要】

小学生を対象に、事務所 HP や関係機関のご協力によるチラシ配架等で参加者を募り、東京湾のアサリがいつ・どこでわくのかを調べる江戸前アサリ「わくわく」調査を実施しました。

【開催時期】 令和7年7月24日

【場所】

横浜港湾空港技術調査事務所
生物共生型護岸「潮彩の渚」（人工干潟）
横浜市神奈川区橋本町2-1-4



【主なイベント内容】

25cm×25cm×10cm の「わく」内にどれだけのアサリが「わく」かを調査しました。
調査地点 16 箇所で合計 154 個、殻長は 1~27mm でした。（10mm 前後が大半を占める）
東京湾のアサリに関する座学も行いました。（講師_東邦大学名誉教授・風呂田先生）



調査の全景



調査の様子（採取）

イベントレポート7

環境啓発活動等のイベントの概要

主催機関	イベント名
横浜港湾空港技術調査事務所	生物観察会・横浜の海はいま？ ～ハマにたどり着いた見知らぬ生きものたち～
参加人数とそのうちの子供の数	
参加合計人数 26 名 そのうち 小学生 12 名 中学生 1 名 未就学児 2 名 保護者 11 名	

【イベント概要】

小学生を対象に、事務所 HP や関係機関のご協力によるチラシ配架等で参加者を募り、人工干潟で生物観察会を行いました。特に付着生物や外来生物に着目した生物観察会を開催しました。

【開催時期】

令和 7 年 8 月 8 日

【場所】

横浜港湾空港技術調査事務所
生物共生型護岸「潮彩の渚」（人工干潟）
横浜市神奈川区橋本町 2-1-4



【主なイベント内容】

外来海洋生物（ミドリイガイ等）や付着生物（マガキやフジツボ等）を中心とした干潟の生物を調査しました。その後は室内で顕微鏡で拡大観察しながら、貝の細かな模様や動く様子も観察しました。

ミドリイガイなどの外来海洋生物や付着生物に関する座学も行いました。（講師_神奈川大学非常勤講師・植田先生）



調査の全景



座学の様子

イベントレポート8

環境啓発活動等のイベントの概要

主催機関	イベント名
東亜合成株式会社 川崎工場	工場一斉清掃 (8月28日実施)
参加人数とそのうちの子供の数	
参加合計人数 20名 (推定)	
そのうち 小学生 0名、中学生 0名	

イベントレポート9

環境啓発活動等のイベントの概要

主催機関	イベント名
横浜港湾空港技術調査事務所	近隣小学校の環境学習
参加人数とそのうちの子供の数	
参加合計人数 93 名	
そのうち 小学生 84 名 小学校教諭 3 名 随行保護者 6 名	

【イベント概要】

横浜市神奈川区内の小学校の4年生3クラスが来所し、「潮彩の渚」において環境学習を行いました。6月に続いて2回目の来所であり、干潟において稚ガニや稚貝に着目した調査・観察を行いました。

【開催時期】

令和7年9月18日～9月19日

【場所】

国土交通省横浜港湾空港技術調査事務所
生物共生型護岸「潮彩の渚」
横浜市神奈川区橋本町2-1-4



【主なイベント内容】

総合の授業の一環として3クラスが来所し、人工干潟で活動しました。各クラスともに海の環境に関する活動テーマを各々掲げており、そのテーマに沿った座学を行いながら、海の生き物観察や干潟の土の観察、漂着ごみを拾う活動などを行いました。東京湾環境情報センターを用いて、東京湾の水質・水温などについて理解を深めました。



人工干潟での生物観察



座学の様子

イベントレポート10

環境啓発活動等のイベントの概要

主催機関	イベント名
東京湾大感謝祭実行委員会	東京湾大感謝祭 2025
参加人数	
参加合計人数 12,000 名	

【イベント概要】

東京湾大感謝祭実行委員会（事務局：東京都港区虎ノ門3丁目1番10号一般財団法人みなと総合研究財団内）は、横浜市役所アトリウムを会場に9月27日（土）～28日（日）「東京湾大感謝祭 2025」を実施した。東京湾大感謝祭は、東京湾に親しみを感じ、東京湾の海に関する現状を知る良いチャンスを提供する。

東京湾再生行動計画（第三期）※1の新しい目標「流域 3,000万人の心を豊かにする「東京湾」の創出」に沿って、東京湾大感謝祭 2025では、多くの方々の交流の場を提供し、東京湾に親しみ、心を豊かにするきっかけづくりに取り組んでいる。10月1日は、「東京湾の日」で、10月開催の沿岸各地のイベントとの連携の環を広げ、東京湾をとりまく湾岸自治体との連携をはかっている。

<開催概要>

- イベント名：東京湾大感謝祭 2025
- 会期：2025年9月27日（土）～28日（日） 10:00～17:00
- 会場：横浜市役所アトリウム
- 入場：無料

- 主催：東京湾大感謝祭実行委員会
（実行委員長：寺元 敏光 東京湾フェリー株式会社 常務取締役）
- 共催：国土交通省関東地方整備局、環境省、横浜市、
東京湾再生官民連携フォーラム、（一財）みなと総合研究財団、
東京湾の環境をよくするために行動する会
- 後援：水産庁、東京湾再生推進会議、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、
川崎市、千葉市、さいたま市、横須賀市
- 協力：横浜港運協会、（公財）横浜市観光協会、（一社）横浜港振興協会、
経団連自然保護協議会、（一財）セブン・イレブン記念財団、
（一社）日本埋立浚渫協会、千葉県漁業協同組合連合会、
神奈川県漁業協同組合連合会、横浜市漁業協同組合、
横浜港ボート天国推進連絡協議会、東京湾フェリー株式会社、神奈川大学、

NPO 法人日本ビーチ文化振興協会、(公財)日本釣振興会、NPO 法人海辺づくり研究会、
NPO 法人 Blue Earth Project、東京湾遊漁船業協同組合

<開催規模>

- ・ 出展組織/団体：32、 協賛組織/団体：13 (出展との重複含む)
- ・ 来場者：東京湾流域に在住・勤務の市民の方々、自治体、研究者、企業、NPO の方々

<おもなイベント内容>

◆ステージ

- ・ オープニングセレモニー
- ・ 東京湾・地元自慢・マイフィールド・ホームタウン・ (1-1) 館山市、(1-2) 横浜市港湾局、
(2)東京都 朝潮地区運河ルネサンス協議会
- ・ 東京湾を楽しむために～海洋レジャーの安全・ルール・マナーを守ろう～
- ・ トップアスリートがはだしで語る「僕たちが描くビーチスポーツの環境未来」
- ・ 水の天使と考えよう！下水道と東京湾再生について
- ・ 江戸前ブランドの魚達を楽しむ方法！

<ふれる、作る>

- ・ 海・海藻と遊ぶ・体験～海藻で万華鏡をつくろう～
- ・ 東京湾・クッキング フードコーディネーター西原佳江さんによる東京湾クッキング

<見る、知る>

- ・ ここにいる、生きている～消えゆく海藻の森に導かれて～ドキュメンタリー映画
ハイライト版上映 長谷川 友美 監督 対談
- ・ 生き物、干潟ロードの紹介と環境学習体験
東京湾の魅力再発見の旅 神奈川大学 学生たち
- ・ 東京湾お台場の水中は今！

<音楽・ダンス・マスコットキャラクター>

- ・ 横浜 F・マリノスホームタウン活動&トリコロールマーメイズ
リトルマーメイズ チアステージ
- ・ 横浜市民こどもミュージカル
- ・ ボーカル&ギター ～TOKYO-ONE の歌～ ORICA さん
- ・ music 黒船楽団 C.f.o 鍵盤ハーモニカカルテット
- ・ マスコットキャラクター紹介

◆展示

- ・ 海、港湾づくりの技術、企業活動を紹介する多数の展示。生き物や環境に配慮した知恵の工夫・技術が詰まっています。

■食す 買う

東京湾マルシェ (アトリウム屋外・北プラザ)

<出展者表彰・結果>

2025年より出展ブースの表彰を実施しました。

三洋テクノマリン様が「素晴らしいアイデア de 賞」、

下水道プラットホーム様が「ワクワクした de 賞」、

南房総宿泊・滞在型観光推進協議会様が「しっかり伝わった de 賞」を受賞

<連携イベント>

第25回東京湾シンポジウム/主催 国土技術政策総合研究所(国総研)

東京湾周遊特別クルーズ・船上で東京湾の環境を学ぶ-/主催 東京湾フェリー(株)

ジャパンビーチゲームズ®フェスティバル千葉 2025/事務局：NPO 法人ビーチ文化振興協会

「つり初めて親子のためのハゼ釣り入門教室」(公財)日本釣振興会 神奈川県支部

<関連展示>

・横浜市役所アトリウム2F PR スペース 9/13～9/28

※「東京湾再生のための行動計画（第三期）」

https://www1.kaiho.mlit.go.jp/TB_renaissance/index.html

目標：快適に水遊びができ、「江戸前」をはじめ多くの生物が生息する、親しみやすく美しい豊かな「海」を多様な主体が協力しあうことで取り戻す～ 流域 3,000 万人の心を豊かにする「東京湾」の創出 ～

<東京湾大感謝祭 2025 オープニングセレモニー9月27日>



東京湾大感謝祭 2025 セレモニー



上段 寺元敏光実行委員長 来賓の方をお迎えしてのご挨拶

下段：左側から寺元敏光実行委員長、東京湾再生官民連携フォーラム議長 佐々木淳さま、参議院議員 脇 雅昭さま、国土交通省 港湾局長 安部 賢さま、横浜市副市長 平原 敏英さま、マスコットキャラクターとともに開幕！

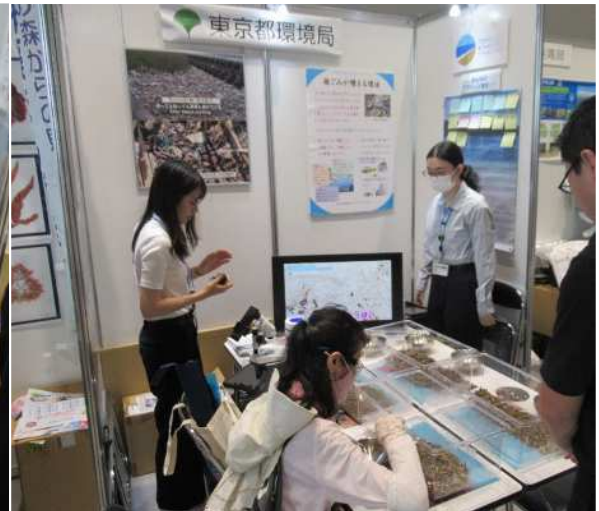
■展示ブース



東亜建設工業㈱ VR シミュレーター体験



若築建設㈱ 若鷺丸を仮想空間で動かす体験



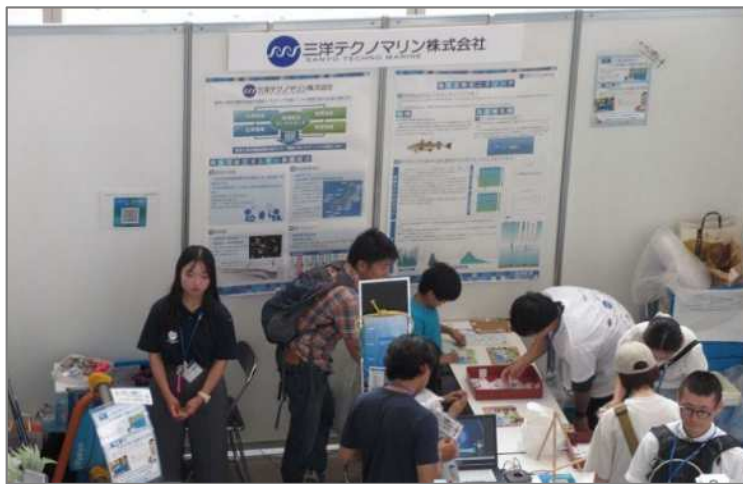
海藻おしば協会 海藻を使った万華鏡づくり教室 東京都 環境局 海ごみを考える、マイクロプラスチックを探すワークショップ



下水道広報プラットフォーム 下水道の仕組みを分かりやすく解説
五洋建設(株) 水辺のVR体験 ▶



東洋建設(株) DASH 海岸 展示模型 アマモ里親チャレンジの実施



▲ 三洋テクノマリン(株) 海業について学ぼう

<9/27 ステージ>



フードコーディネーター西原佳江による東京湾クッキング



東京湾クッキング出来上がり料理



東京湾・地元自慢 館山市 夢アジ



東京湾を楽しむために～海洋レジャーの安全・ルール・マナーを守ろう～



ドキュメンタリー映画「ここにいる、生きている～消えゆく海藻の森に導かれて～」ハイライト版上映&トーク 長谷川 友美 監督×渡辺 健太郎 みなと総合研究財団調査研究部 主任研究員



水の天使と考えよう！下水道と東京湾再生

<9/27,28 ダンス&ミュージックステージ>



横浜 F.マリノスリトルマーメイズチアステージ



赤い靴記念文化事業団 横浜市民ミュージカル



黒船楽団 C.f.o 鍵盤ハーモニカカルテット



TOKYO-ONE の歌 ORICA さん

<9/28 ステージ>



マスコットキャラクター紹介ステージ



神奈川大学 東京湾の魅力再発見の旅



トップアスリートがはだして語る「僕たちが描くビーチスポーツの未来環境」

江戸前ブランドの魚達を楽しむ方法

<アトリウム通路側 東京湾再生官民連携フォーラム PT チームの展示>



モニタリング推進 PT によるハゼ、カニなどの粘土細工

東京湾の窓 PT によるカニのふれあい ▶



表彰式：左側から三洋テクノマリン様が「素晴らしいアイデア de 賞」、下水道プラットホーム様が「ワクワクした de 賞」、南房総宿泊・滞在型観光推進協議会様が「しっかり伝わった de 賞」を受賞

<アトリウム外側での東京湾マルシェ>



新米、地たまごなどの販売



キッチンカー黒船亭による横須賀海軍カレーとアジフライ

10. 用語解説

表 10-1 水質指標について

項目	説明	環境との関連
溶存酸素量 (DO)	<p>水中に溶けている酸素量のこと で、酸素供給（大気からの溶解や植物プランクトンを含む藻類による光合成など）と消費（有機物の分解、生物の呼吸など）や移流・拡散のバランスを示します。水中に溶ける酸素量は水温が高くなると減少し、水温 20℃の時に約 9 mg/L で飽和状態となります。底層溶存酸素量（底層 DO）とは海底から 1 m 以内の底層で測定された溶存酸素量のことです。</p>	<p>貧酸素状態が続くと、好気性微生物（酸素を必要とする生物）にかわって嫌気性微生物（酸素を必要としない生物）が増殖するようになります。嫌気性微生物の活動により有機物の腐敗（還元・嫌氣的分解）が起こり、メタンやアンモニア、有害な硫化水素が発生し、悪臭の原因となります。また、溶存酸素濃度が 3 mg/L を切ると魚類を含めた多くの底生生物は生息できなくなり、生物多様性が低下します。</p>
塩分	<p>海水 1 kg 中に溶解している塩化ナトリウムなどを主とした固形物質の全量に相当します（絶対塩分）。海水には非常に多くの物質が溶け込んでおり、絶対塩分を直接測定することは困難なので、精度良く測定できる海水の電気伝導度から換算式を用いて仮定の塩分（実用塩分）を求める方法が一般的です。 ※単位は psu（実用塩分）</p>	<p>海面を通じた降水量と蒸発量の差や、河川水等による淡水流入の影響で変化します。低塩分の海水は密度が小さく、相対的に軽いため、表層に低塩分水が分布すると、底層と表層の海水が混ざりにくくなります。こうなると底層の水へ酸素が供給されにくくなることから底層の貧酸素化に影響します。</p>
①透明度 ②透視度	<p>どちらも水の清濁を表現するための指標です。①は直径 30 cm の白色円盤（セッキ板）を水中に沈め、水面から肉眼で確認できる限界の深さをいい、②は透明な管に試料を入れて上部から透視し、白色の標識盤に書かれた印が初めて明らかに確認できるときの水層の高さをいいます。</p>	<p>①、②ともに値が大きいほど水が澄んでいることを表します。主に①は海や湖沼、②は河川や排水の調査等で使用されます。一般的に、水中に浮遊物質や生物が多くなると値は低下します。ダイビングにおいても透視度という用語を用いますが、これは水平方向に見通せる距離を表したものです。</p>

項目	説明	環境との関連
化学的 酸素 要求量 (COD)	水中の有機物を酸化剤で化学的に酸化する際に消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、水中の有機物の分解に必要な酸素の量を表します。	湖沼・海域などの停滞性水域や藻類の繁殖する水域の有機汚濁の指標に用いられます。CODが高い状態が続くと、生物生息環境の多様性が低下し、魚類を含めた底生生物は生息できなくなります。
全窒素 (T-N)	全窒素・全リンは、湖沼や内湾などの閉鎖性水域の富栄養化の指標として用いられています。水中では、窒素・リンは、硝酸・リン酸イオンなどの無機イオンや含窒素・含リン有機物として存在しています。	窒素やリンは、植物の生育に不可欠なものです。過剰な窒素やリンが内湾や湖に流入すると富栄養化が進み、植物プランクトンの異常増殖を引き起こすことがあります。そのため、湖沼におけるアオコや淡水赤潮の発生、内湾における赤潮発生の直接の原因となります。
全リン (T-P)		
クロロ フィル- <i>a</i>	全ての藻類に含まれる光合成色素であることから、水中の植物プランクトン量の指標として用いられます。	

○水質汚濁現象について

・赤潮（水質指標キーワード：全窒素、全リン、クロロフィル-*a*）

水中に生存している植物プランクトン等が異常に増殖し、水の色が著しく変わる現象です。水の色は原因となるプランクトンの種によって異なり、赤褐色、茶褐色などの色を呈します。赤潮が発生する背景としては、窒素やリンの流入負荷量増加に伴う水域の富栄養化が原因のひとつと指摘されています。大量に発生した赤潮生物は死滅後、微生物によって分解される過程で大量の酸素を消費するため、貧酸素水塊の形成要因のひとつとされています。この他にも、毒性を持つプランクトンによる赤潮は、その水域の生物に直接的に被害を与えることがあります。



写真：千葉港内（平成15年8月11日）



写真：隅田川河口部（平成22年7月5日）

・青潮（水質指標キーワード：DO）

富栄養化や有機物による水質汚濁の進んだ内海の底層では、大量発生したプランクトンの死骸が微生物に分解される過程で酸素が消費され、貧酸素水塊が形成されます。貧酸素水塊中では、底質中の硫黄化合物の還元が促進され、次第に水中への硫化水素の蓄積が進みます。このような水塊が風などによって表層まで湧き上がると、含まれていた硫化水素が酸素と反応して硫黄のコロイドを大量に生成します。コロイドは、太陽光を反射して海水を乳青色や乳白色に変色させます。青潮も赤潮と同様に水生生物の大量死を引き起こすなど、生物に被害を与えます。東京湾ではアサリの大量死が起こることもあります。



写真：羽田沖（平成16年8月18日）



写真：千葉港（平成23年8月30日）

・貧酸素水塊（水質指標キーワード：DO）

生物に影響を及ぼすほど酸素の濃度が低くなった水塊のことです。境界値についてはさまざまな指標がありますが、水産用水基準においては 4.3 mg/L が「底生生物の生息状況に変化を引き起こす臨界濃度」とされています。また、環境省が告示する生活環境の保全に関する環境基準において、生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域の基準は 4.0 mg/L 以上、生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域は 3.0 mg/L 以上とされています（詳しくは、<https://www.env.go.jp/kijun/mizu.html> をご覧ください）。

1 1. 問い合わせ先等

(1) 問い合わせ先

本資料の内容や東京湾環境一斉調査についてのお問い合わせ・ご意見は、下記連絡先までお願いします。

- 東京湾再生推進会議モニタリング分科会事務局
環境省水・大気環境局海洋環境課海域環境管理室 03-5521-8319
- 九都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会
令和7年幹事 横浜市みどり環境局環境保全部水・土壌環境課 045-671-2489
- 東京湾岸自治体環境保全会議
令和7年度幹事 川崎市環境局環境対策部環境保全課 044-200-2520
- 東京湾再生官民連携フォーラム
東京湾環境モニタリングの推進プロジェクトチーム 03-5157-5235

(2) 情報掲載先

東京湾環境一斉調査の報告書は東京湾環境一斉調査 WEB サイトに掲載しています。また、調査結果を分かり易くまとめた「東京湾環境 MAP」を国土技術政策総合研究所 WEB サイトにて掲載しています。

東京湾環境一斉調査の観測データは、東京湾環境情報センターから入手することができます。

- 東京湾環境一斉調査 WEB サイト
https://www.env.go.jp/water/heisa/tokyo_wqs.html
- 国土技術政策総合研究所 WEB サイト（東京湾環境マップと事例集に関する情報）
<https://www.y.sk.nilim.go.jp/kakubu/engan/kaiyou/kaiyouDB.html>
- 東京湾環境情報センター（国土交通省関東地方整備局港湾空港部横浜港湾空港技術調査事務所）
<https://www.tbeic.go.jp/>

(参考)

- 東京湾再生推進会議 WEB サイト
https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/index.html